

第4回みらいミーティング会議報告

- 1 日時 令和6年11月22日（金）19時00分～20時30分
- 2 会場 倉敷市役所10階大会議室
- 3 テーマ 地域を守る消防団
- 4 参加者 倉敷市消防団

発話者	発話内容
Aさん	会社の上司(別分団所属)に誘われて入団。消防車の操作などを学ぶことができ、良かったと感じている。分団員の中で若い方であり、今後若手が増えることを期待。分団員増加のため、PR動画を活用して広報することを提案した。
Bさん	知人の勧めで入団。消防団の活動が会社の防災にも役立つと実感している。新しい団員獲得の難しさ、特に直接の知り合いに声を掛けても入団につながりにくい現状を指摘した。
市長	消防団の日頃の巡回の様子や訓練風景を公開することで、市民の理解と関心を高めることにつながるとの思いから、PR動画に加え、防災フェアなどでの広報活動の重要性についても触れた。
Cさん	夫の影響で入団。当初は男性消防団と同じ活動を想定していたが、実際は啓発活動が中心だった。防災グッズの作り方を教えたり、保育園での紙芝居の読み聞かせなど、地域に根差した活動に取り組んでいる。先日地域で小さな子どもも楽しめる防災イベントに参加したので、今後も地域でできることをもっとやっていきたいと意欲を示す。
Dさん	女性消防団発足時に勧誘され入団。当初は活動内容も分からず不安だったが、徐々に活動を増やし、人とのつながりを実感。子育てとの両立の難しさにも触れつつ、現在は子どもが成人したため、より積極的に活動に参加。PR動画制作など、貴重な経験を積むことができた。これから地域の活動に積極的に参加し、災害の際には、地域のために活動できればと語る。
市長	今年8月の南海トラフ臨時情報発令時に、要支援者への個別避難計画作成のため、市の職員が戸別訪問を実施したことに触れ、地域住民との日頃のコミュニケーションが重要で、消防団員は地域のことをよく知っているため、災害時には大きな役割を果たせると期待を寄せた。
Eさん	地域活動への参加がきっかけで入団。操法大会への参加や子供会、祭りの保存会など、多忙な日々を送る中でスキルアップを実感。娘もPR動画に出演。組織づくりを通して得た経験を活かしたい。
Fさん	消防への憧れから入団。真備水害の際には、消防署員への食事提供や救護活動など、自分にできることを探して活動。真備の経験があるので、避難についての啓発活動に力を入れている。

市長	真備の災害時の消防団の活動に感謝し、被災地での炊き出しや支援活動は、被災者だけでなく、他の地域から駆けつけた消防隊員にとっても大きな支えになったと語った。地域のことをよく知っている消防団員の存在が、地域社会の安全・安心に大きく貢献していることに改めて感謝を述べた。
Gさん	友人の誘いで入団。温かい雰囲気の中で活動しやすく、視野が広がったと実感。救命講習の知識を職場で活かすなど、消防団活動で得た経験を様々な場面で活用。
Hさん	真備のボランティア活動がきっかけで入団。商店街での AED 講習などを実施している中で、興味を持っていなかった人に知ってもらうという啓発活動の重要性を認識。娘も入団したことを報告。
Iさん	叔父の勧めで入団。当初は消防団活動への意識は低かったが、担当地域の火災をきっかけに意識が変化。PR 動画への出演や操法大会への参加など、積極的に活動。消防団のイメージ改善と団員増加のための取り組みを模索。
Jさん	知人の誘いで入団。操法大会に初参加。招集連絡のアプリ化を提案。
Kさん	知人の勧めで入団。花火大会で熱中症患者への応急処置を行った経験から、消防団活動の意義を実感。消防の活動服を着ているところを見られ、息子に「かっこいい」と言われたのがうれしかったと語る。
市長	今後の新入団員の確保について、アイデアを聞かせてほしいと呼び掛けた。
Eさん	消防団は地域活動が中心のため、地域に馴染みにくい人は入りにくい。そこで、火災現場や地域イベントでの活動、訓練風景など、消防団員の実際の様子を伝える PR 動画を作成し、魅力や役割を伝えて入団を促進してはどうか。
市長	地域の小学校区の祭りなど、いろんな場面での PR を提案した。
Fさん	消防団女性部は、若い世代には、子ども連れでも参加できる環境づくりをアピールしているが、現実的には子育て中の入団は難しい。近年、定年は 63 歳まで延長されたが、女性部が活動しやすいのは 50 代前後の 10 年間はピークとなる。そこで、体力的に負担の少ない啓発活動を中心とする女性部では、定年を 65 歳まで延長することを検討してはどうか。
市長	働き方や関わり方について選択肢を増やす必要性に共感した。
市長	参加者それぞれの入団のきっかけや活動内容、そして消防団活動に対する思いを聞いたことに感謝の意を述べるとともに、消防局と消防団の一对となった使命の重要性に触れ、市民の安全・安心に向けた協力をお願いした。消防団員確保については、市の PR 活動強化や、大学への働き掛けなどに取り組む意向を示した。